

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1174900553
法人名	有限会社 ひまわりの家
事業所名	ひまわりの家
所在地	〒368-0004 埼玉県秩父市山田2699 (電話) 0494-22-0644

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算 8.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日あたり 1,300円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		1 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳		最高 87 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子クリニック、内田歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成17年8月に開設されたグループホームである。普通の住宅を改造して建てられたホームで家庭的な雰囲気があり、周囲は豊かな自然に恵まれ、窓からは武甲山を臨むことができる。ホームの前には家庭菜園があり、利用者と一緒に野菜などを作り、食材として使用している。また、地域の方が気軽に立ち寄り野菜等を分けてくれるなど地域に密着したホームである。開設3年目になり、管理者は職員と協力して各種マニュアルを整備し、ケアの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>金銭管理については家族のサインをしてもらうよう改善した。運営に対する家族等の意見の把握については面会時の他、運営推進会議に家族の参加をお願いするなどの工夫をした。職員を育てる取り組みではホーム内での勉強会の他、地域の研修会に参加するなど、研修の機会を増やす努力がみられた。災害対策についてはさらなる取り組みも期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の意義について職員に説明し、職員全員で自己評価に取り組み、管理者と計画作成担当者が職員の意見をまとめて調査票を記載した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームでの行事や利用者の状況、評価の取り組みや外部評価結果について報告し、意見や要望を聞いている。また、会議で出された参加メンバーからの意見を参考に、サービスを見直して日常のケアに活かしている。具体的には、地域住民への施設見学や利用者の外食について検討し実践した。また、利用者の緊急時の対応や看取りのケアについても話し合いを行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や運営推進会議などの場を活用して、家族の意見や苦情、不安を把握するように努めている。家族の意見などは朝のミーティングや職員会議で検討し実践している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方が野菜を届けてくれたり、散歩時に挨拶を交わすなど、日常的なつきあいがあ。また、地域の敬老会やお祭りに参加し、ホームの納涼祭には地域の方を招待して交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々の暮らしの中で生き生きと輝きをもってその人らしく生活できることを織り込んだ理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲示され、朝会で毎日理念を斉唱し、職員全員が共有できるように努めている。その他、ミーティングやケアの振り返り時には理念を意識するように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し日常的に地域とのつきあいがある。地域の敬老会やお祭りに参加したり、ホームの納涼祭には地域の方を招待するなど、地域との交流を活発に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に伝え、職員と一緒に評価を活かした改善に取り組んでいる。また、外部評価の結果については運営推進会議で報告し、意見を聞き改善に役立てている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回を目標にして運営推進会議を開催している。ホームの行事や利用者の状況、外部評価結果などを報告し、参加者の意見や要望を聞いている。出された意見については職員会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の状況やケアサービスの取り組みについて、電話やメールを利用しながら日常的に報告し、必要に応じてアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ひまわり便り」を月1回発行し、ホームでの暮らしぶりを知らせている。金銭管理については家族に報告しサインをもらっている。その他、家族が来訪した際にも利用者の状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族来訪時などの機会を捉えて、家族の意見や苦情を把握できるように努めている。なお、家族の意見については職員会議で話し合い、ケアサービスの向上につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員が離職しないように配慮しているため、離職者は少なく異動もなく、利用者への影響は最小限に抑えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成担当者が中心になって内部研修を行っている。外部研修については職員の希望も聞き、業務として参加できるように工夫している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成担当者はグループホーム協議会に参加し同業者との交流の機会はある。しかし、その他の介護職員が参加する場がないので、その機会を作ってほしい意向をグループホーム協議会に提案している状況である。		グループホーム協議会への提案が実行されるよう前向きに取り組むことが期待される。また、サービスの質の向上に役立つ研修会やホーム同士の見学会などの取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する場合は、本人や家族の思いを聞きながらホームの見学や体験入所などを段階的に行い、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や雑巾作りなど、利用者の得意とすることを職員と一緒にやり、利用者を支えたと同時に利用者から学ぶことも多く、お互いに支えあう関係が築かれている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の希望や意向を聞くほか、家族から利用者の情報を得るように努めている。日常的な暮らしの中で徐々に利用者の思いを汲み取るように努め、ミーティングで本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、その他関係者からの情報をもとに、課題を明らかにして介護計画を作成している。本人及び家族の希望を聞き、具体的にケアに活かせる介護計画になっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われている。その他、必要に応じて本人、家族、職員で話し合い、随時見直しを行い介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望により通院や買い物の支援をしている。その他、家族が入院している施設への面会に同行するなど柔軟な対応がみられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き対応している。ホームの近くにある事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合が多く、緊密に連携をとりあっている。本人が入居前の医療機関を希望する場合には、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は最期までの看取りをする方針を持ち、本人、家族、医師を交えた話し合いを随時行い、合意に基づいて支援している。これまでに終末期の看取りを1例行った。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーに関する勉強会を行い、プライバシー確保に努めている。利用者への言葉掛けも適切である。また、利用者の個人記録などの情報もきちんと管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や思いを大切にして、一人ひとりのペースで過ごせるように工夫している。居間のこたつに入り話し合っている方、居室で読書を楽しむ方など、その人らしい暮らしができるように支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。食事は利用者の好みであった手作りのもので、利用者は職員と食事の内容などを話題にしながらかしい雰囲気の中で食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やその日の状況により決めているが、週3回は入浴できるようにしている。午前中にゆっくり入浴できるように支援しているが、その他の時間を希望する場合には対応する方針である。失禁で汚れた場合は、随時シャワー浴などを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なこと、趣味などが発揮できる場を作っている。また、花見や買い物、ドライブなどの行事を計画的に行い、生き生きとした暮らしができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は自然が豊かなので、天気や利用者の状況をみながら散歩コースを決め、ほぼ毎日出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には施錠せず利用者は自由にホーム内を歩き来ることができる。道路に面した玄関は安全のために施錠しているが、利用者が心理的に不安や閉塞感を感じないように配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し定期的に避難訓練をしている。年1回は消防署の協力を得て避難誘導訓練を行い、AEDの使い方も習った。その他、年1回、火災報知器の業者から指導を受けて避難訓練をしている。地域の方の参加もみられるが十分とはいえない。		地域への働きかけを強め協力体制を築いていくことが望まれる。また、夜間想定訓練や災害に備えた備品などの準備も計画的にされることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェックし記録している。また、利用者の体調により補食や飲料が提供できるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい陽ざしがたっぷり差し込む居間にはこたつソファが設えてあり、利用者は思い思いの場所で過ごしている。食堂は居間とは別の空間にあり、落ち着いて食事がとれるようになっている。廊下や食堂の壁には手作りのカレンダーや写真などが掲示され、季節感もあり居心地良い共用空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の好みのものが置かれその人らしい居室作りとなっている。利用者によりベッドを使用される方と、そうでない方がおり、それぞれが安心して居心地よく過ごせるように工夫されている。		